

茨城県ユース審判員研修会

2020.2.22～23

茨城県高体連サッカー専門部
(公財)茨城県サッカー協会審判委員会

茨城県高体連サッカー専門部主催の県内高校生を対象としたユース審判員研修会が年数回実施されています。2月は年に一度の宿泊(1泊2日)をともなった研修会となっており、若い審判員発掘の貴重な機会と捉えて茨城県サッカー協会審判委員会も指導部若手育成担当を中心に一昨年から協力させて頂いて今年が3年目になります。

今回は既に4級以上の審判員資格を有する高校生を対象として募集し、3級審判員4名、4級審判員16名が参加しました。神栖市波崎地区にて行われた関東トレセンU13、U14リーグを実技の場とし、実技の前には技術的なプラクティカルトレーニングを予め実施、1日目の夜には座学講義を行いました。

【スケジュール】

	時間	内容	会場
2/22 (土)	9:00～11:00	集合・フットワークトレーニング	あおのサッカーパーク5G
	12:20～15:20	審判実技 8試合	矢田部サッカー場
	19:00～21:00	講義研修会	ホテルチェクインきたがわ
2/23 (日)	9:00～14:50	審判実技 16試合	矢田部サッカー場
	15:20	閉会式・解散	

【参加人数】 20名(日立商業17名、取手松陽1名、下妻一高1名、竹園1名(2/23のみ))

【インストラクター】 15名(2級インストラクター4名、3級インストラクター11名)

氏名	2/22	2/23	インストラクター資格	審判委員会所属等
徳守直樹(下妻二高)	○	○	3級	2種委員長、指導部若手育成担当
豊野隆匡(竜ヶ崎一高)	△	○	3級	2種委員会、指導部若手育成担当
磯上雄太(高萩高校)	○	○	3級	
海老澤雅彦(下館二高)	○	○	2級	インストラクター部
西尾英朗	○	△	3級	指導部長、J1副審
近間雅昭	○	○	3級	指導部若手育成担当リーダー
藤島慎悟	△	○	3級	指導部若手育成担当
大倉直哉	△	○	3級	指導部若手育成担当
鶴田憲司	○	○	3級	指導部若手育成担当
高山浩樹	○	○	3級	指導部若手育成担当
柿沼 亨	△	○	3級	指導部強化担当、J2主審
鈴木 朗	○	○	2級	インストラクター部
鈴木 昌	○	△	2級	インストラクター部
犬飼一郎	○	○	3級	インストラクター部、元J1副審
上野裕司	○	○	2級	競技部長
計	11	13		

プラクティカルトレーニング③(副審のシグナル)

副審が行うシグナル(スローイン、オフサイド、ゴール・コーナーキック等)の確認をしました。



最初は手首や肘が曲がった状態でシグナルしていることに気づいていない審判員も多くみられました。インストラクターがシグナルを見て修正を行ったり、2人一組でお互いのシグナルをチェックしたりして、最後は全員が綺麗な見栄えのするシグナルを行えるようになりました。

また、フラッグテクニック(状況に合わせて旗を左右どちらの手で持つか)についてもトレーニングを行い、副審の意思を伝えるうえで重要である事を理解してもらいました。

プラクティカルトレーニング④(オフサイドの判定)

FWがDFの裏を狙って入れ違う瞬間に合わせてパスを出して際どいオフサイドかオンサイドかの判定を求められる状況をインストラクターが選手役として作り、判定を行いました。

際どい判定を行うと同時に、基本的な副審としてのサイドステップやフラッグの持ち方・使い方も確認しました。

<試合(実技)>

2日間で主審と副審それぞれ一人あたり1~2試合担当してレフェリングを行いました。全ての試合ではインストラクターがチェックし、試合後に担当審判員と試合の振り返りを実施。

初めは笛の音が小さかったり、シグナルが自信なさそうな感じだったりしたものが2日間を通して改善され、最後には安心して試合を任せることが出来るようになっていました。

プラクティカルトレーニングで学んだことや前の試合の振り返りにおいて指摘されたことを、目の前の試合で前向きに取り組もうとする姿勢が全体的に見る事ができて若い力の逞しさも感じる事が出来ました。



<座学講習会>

JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会参加報告 櫻井歩(竜ヶ崎一高)

昨年 12 月に鹿児島にて JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会が開催されました。その大会へ関東協会代表 6 名の審判員の一人として参加した竜ヶ崎一高 2 年の櫻井歩さんから参加報告をして頂きました。

大会へ向けて県内インストラクターからサポートを受けたこと、大会では決勝トーナメントに割当たらなかった悔しさ、また全国に仲間が増えた経験など、関東代表が決定してから大会を終えるまでの過程での取組みや、感じたこと、学んだことについて話してくれました。色々な方のサポートがあって大会に審判員として関わることが出来ている事についての感謝の気持ちをこれから恩返ししていきたいとも語っていました。

来年度は受験勉強のために審判活動を一時的に離れることになるのですが、新たなステージに向けての決意も話してください、参加した審判員にとっては同じ高校生の体験談を通した話は良い刺激になったのではないかと思います。



インストラクター講義

◎上野裕司

1 日目の試合を通じて、主審がどこに動けばよいのか迷っている傾向を感じ、予定にはなかったのですが審判員として基本的な動きである対角線審判法について、その利点も含めて説明しました。

また、映像を使って難しいハンドリングの反則か否かの判定やオフサイド(意図的なプレーか跳ね返りなのか等)について、判定のもととなる判断要素を含めて解説しました。



◎鈴木朗

フリーキックのマネジメントをテーマにしてグループディスカッションを行い最後は発表を行いました。フリーキックのマネジメントで守備側の壁を下げる際に気を付けなければならない事やその優先順位について話し合ってもらい、次の日の試合においても役に立ったのではないかと思います。

◎西尾英朗

審判を始めたキッカケから 1 級審判員、国際副審となるまでの過程で経験したこと、感じた事などを話しました。

トップリーグにフィールド上で関わることが出来る魅力など、審判員としてでしか味わえない経験を伝える事によって、審判というものに少しでも興味を持ってもらいたいと思いました。



<まとめ>

まずは、今回の研修会開催に当たり様々な立場でご協力頂いた方々へ厚く御礼申し上げます。

少子高齢化が進む日本社会において、サッカーの審判界も人材会発掘・育成については長期的な課題に直面しています。審判は良くて当たり前でミスした時だけ騒がれて叩かれるものです。審判に限らず一人のミスを大勢が叩く図式が多くみられる昨今の社会情勢もあり、若い方にとって審判は割に合わない役割であるように映る傾向のほうが強いのではないのでしょうか。そのような事から、このユース審判員研修会は、参加する高校生に審判のポジティブな部分に触れてもらい茨城県サッカー界の審判員発掘につながる重要な位置づけと考えて開催しています。

審判の魅力を感じてもらうためには先ず実際にやってもらうことが一番です。しかしながら、やってもらうにしてもやり方を知らなければフィールド上で何をやって良いかわからず立ち尽くすだけになってしまいますので、この研修会においては最初にプラクティカルトレーニングを実施して必要最低限の基本的な部分のレクチャーを行っています。

更にもっと遡って考えますと、そのレクチャーも研修会に来てもらえなければ実施することが出来ません。審判を自ら志す者にとって審判研修会に費用がかかっても参加する気持ちになるのは自然なことです。資格は持ってはいるけれど未だ審判を続けようとする確固たる意志もさほど持ち合わせてない高校生にとっては費用を払ってまで審判の宿泊研修に参加することはハードルが高過ぎるのではないかと感じています。よって、昨年からは茨城県サッカー協会審判委員会の予算で宿泊費を含めた参加費免除(定員20名)で審判員の参加募集を行ってこの研修会は開催しています(来年度以降の参加費免除の継続は未定)。

また、大会自体において審判は高校生が担当する事が予め運営サイドからチームへ周知されているお陰で、多少のミスがあっても審判員が委縮しないような配慮がベンチから見受けられ異議が発せられる事は殆どありません。審判員の発掘においては審判サイドだけではなく技術サイドの協力も重要であり、大会全体で若手審判員発掘に協力している雰囲気を感じる事が出来る大会であることは研修会を運営する者として非常に有難く思っています。

審判というものは、フィールド上でサッカーに関わる事が出来る喜びや、責任に対する自身の取組みで得る充実感などがあるから続ける事が出来るものだと思います。この研修会がその魅力の一端でも触れられる機会となり今回の受講者の中から一人でも多く審判を本格的に志す若者が出てくるだけでなく、審判を志すか否かにかかわらずとも選手とは違った角度でサッカーを見る事によって知見を広げ高校卒業後も茨城県サッカー界へ貢献できる人材育成へ微力ながらも寄与できるものに今後もしていきたいと考えています。

(文:西尾英朗)

